

伝えたい 伝統行事

馬佐良地区に古くから伝わる「祭りごと」に、一年の収穫を感謝する『申し上げ祭り』があります。この祭りは、他の地域の申し上げに比べ、昔ながらの伝統作業をそのまま継承し、まず、長さ一尺二寸の竹を十二本ずつ持ち寄り、幣串を作ることから始まります。次に持ち寄った藁で大蛇をつくり、ご神木の幹に奉納し、甘酒と漆しきおだんごで豊作を占います。その独特な内容から平成二年に鳥取県無形文化財に指定されました。

大蛇は十二メートルにも及び、一年を意味する十二回トゲ口を巻かせてから、ご神木のコガの大木の根元に奉納されます。また、豊作を占う神事は、神社にある玉垣内の瓶の中に残っている前年に納めた漆しきの残量で占いますが、前年に比べ、減っていた量が多かったため、今年は豊作が期待されます。本来日没と同時にこの神事は行いますが、ここ二年は昼間に行っています。

馬佐良地区も高齢化が進み、この伝統行事を未来に受け継がれるか危惧されますが、地区の方たちは作業中、常になごやかで笑いが絶えず、この行事を心から楽しんでおられるようでした。その姿から素朴であったかこの行事を守っていく強い意識が感じ取れました。



今年もみごとな長さの大蛇が姿を現しました



僕も一緒に願います



今年もおいしい餅ができました

十二月二十二日、めぐみの里で「すぎなの会」代表 松本美樹さんが、町内産のもち米を使い正月餅を作り、西伯病院などに販売しました。「すぎなの会」は女性五人で平成十一年に活動を始め、日ごろは地元の大豆で豆腐作りを中心に、アスパルや町内の事業所で販売しています。正月のお餅作りは平成十三年から始め、味も好評で予定数はすぐに予約でいっぱいになるそうです。

おいしいお餅が
できました。

南部町めぐり

南部町百人委員会

南部町が誕生し、今まで隣町として過ごしていたところが、自分の町になり、じっとしていません。

もと会見町で、ガイドのボランティアの会を結成して、常に研鑽してこられた岡田昌孫さんにご案内いただいて、バスによる南部町めぐりを企画しました。

十二月十一日(土) 実施(参加者二十数名)
しあわせ・いこい荘に集合(一般町民も歓迎)
レストハウスで昼食(木洩れ日工房のお弁当)
吉持家・天萬庁舎・清水井・法勝寺宿・板祐生館・生田家・会見第二小学校・ノームの糸車・梨柿団地・朝鍋ダム・ほたるの里、などで下車。百人委員会のメンバーでもある吉持家は十代をかけて長者原を開発されたとか、また山林経営と政治家を排出された生田家へ訪問して、お話を伺い、両家からは何とも表現できない心洗われるものを感じました。快く対応していただいて有難うございました。

「ノームの糸車」の吉田さん、蛸の里の井塚さんも大変有難うございました。岡田さんのガイドはとても素晴らしく、南部町への敬意を改めて感じた一日でした。

(市原)



参加したメンバー達